



な ら と し ゆ き
奈良 俊幸 福井県越前市市長

スポーツを通じた、市民の夢びくまを

福井県越前市では現在、奈良俊幸市長のもと、「えちぜん元気プログラムⅢ」を掲げて「ひとつくり、ものづくり、まちづくり」に取り組んでいる。その施策の一つとして、2009年から日本サッカー協会（JFA）と協定を結び、子どもたちに向けたJFA「ころのプロジェクト」夢の教室や夢先生によるスポーツレッスンを、越前市のPRを目的とした「越前発 夢先生協働事業」を展開している。また、そうしたJFAとのつながりから奈良市長が発起人となり、「日本サッカーを応援する自治体連盟」の発足にも至った。「越前市にどんな夢を見ていくかが私の使命」という奈良市長が先頭に立ち、スポーツを通じた市の活性化を推し進めている。

故郷への熱い思いと政治家を志す

小学校時代は野球やサッカーに取り組み、中学校では吹奏楽部に入部するなど、好奇心旺盛だった奈良少年。高校生のときにはスポーツジャーナリストを夢見た。もともとスポーツ観戦が好きだったということもあり、サッカーや体操、ラグビーなどさまざまな競技をテレビで観戦。また、新聞記事をスクラップするなど、スポーツに情熱を傾けていた。大学進学も、マスコミ関係に早稲田大学出身者が多いことから、早大に決めた。

しかし、東京で大学生活をスタートさせると、あることにしてもショックを受けた。それは、あまりに福井県の認知度が低いこと。「これは何とかしなければいけない」奈良青年は感じ始め、ジャーナリストの夢よりも故郷に対する思い入れ



が徐々に強くなっていった。そんな矢先、大学3年時から始まった経済政策論のゼミで小松雅雄先生に出会った。小松先生は郷土愛が強く、また政治に対する造詣も深かったため、その薫陶を受けた奈良青年は、いつしか故郷を元気にする仕事をしたと政治家を志すようになる

が徐々に強くなっていった。そんな矢先、大学3年時から始まった経済政策論のゼミで小松雅雄先生に出会った。小松先生は郷土愛が強く、また政治に対する造詣も深かったため、その薫陶を受けた奈良青年は、いつしか故郷を元気にする仕事をしたと政治家を志すようになる

るころ、リーマンショックが日本経済を揺るがし、さらに食の不祥事が相次ぐ。「人々が目先の利益に踊らされ、他人を思いやる心を失ってしまった。何か長期的な視野に立った事業を展開したいと思った」と奈良市長。そんなときに出会ったのが当時の小倉純二JFA副会長（現名誉会長）だった。

中、安永氏が子どもたちに向かつて話す赤練々な体験談に、視察に訪れた全員が深い感銘を覚えた。子どもたちが憧れるスポーツ選手が自らの経験を話すことで、ストレートにメッセージが届くと感じた」と奈良市長。これをきっかけに「夢の教室」を市内の全小中学校で開催していくことを決め、2009年度から「夢の教室」を予算化し、JFAと協定を結んだ。

小倉名誉会長は小松ゼミの先輩で、2008年に開かれたゼミのOB会で初めて会った。そこで小倉名誉会長から聞いたのがJFA「ころのプロジェクト」夢の教室の話だ。「サッカー協会が子どもの教育に取り組んでいるのは新鮮な驚きだった」と奈良市長は、さつそく資料に目を通し、すぐに越前市でのトライアル授業の開催を決定した。

同年10月、安永聡太郎氏を夢先生に迎え、越前市立味真野小学校でトライアル授業が行われた。奈良市長はもとより教育委員会のメンバーも視察する



2013年11月に越前市立大虫小学校で開催された「夢の教室」。大仁邦彌JFA会長と奈良俊幸越前市長も視察（写真中央／夢先生は東俊介氏）

3期目に入った。今でも同プログラムを基に、市の活性化に心血を注いでいる。



JFAと越前市による「元気な自立都市 越前」を創造するための協定が2012年に再び締結された（写真左が奈良俊幸越前市長、右は小倉純二JFA名誉会長）

また、2011年からはJFAと越前市の連携をさらに密にしていることと「越前発 夢先生協働事業」をスタート

した。特筆すべき点は、第91回天皇杯全日本サッカー選手権大会のポスター、チラシ、賞状に越前和紙が使用され、その後2大会も同様の形がとられていること。また、市のイベントである「コウノトリが舞う里づくり大作戦」や「食育フェア」に角界から貴乃花親方なども参加し、市民との交流も図った。全国的なPRにもなるし、越前市民の皆さんにも関心を持っていただけた。そして、伝統産業に従事する方たちの誇りにもつながっている」と奈良市長が語るように、JFAとともに取り組む活動は、越前市の「ひとつくり、ものづくり、まちづくり」とリンクする形で大きな成果を生み出した。今後も「JFAの力も借りながら、「自然と共生する絆のまち 越前市」を築いていきたい」と奈良市長の思いは強い。

「日本サッカーを応援する自治体連盟」の発足に尽力

越前市のふるさと大使を務めている小倉名誉会長、大仁邦彌会長らと親交が深い奈良市長は昨年、自身が発起人となり、「日本サッカーを応援する自治体連盟」の設立にも尽力した。きっかけは、2013年6月に行われた2014 FIFAワールドカップブラジルのアジア最終予選 オーストラリア戦を観戦したこと。「本田圭佑選手のゴールで、日本中が一つになって盛り上がるのを見て、この熱気をワールドカップまで継続し、日本代表が目指す大きな夢を共有できたかと思つた」と話す。「JFAと関係が深い自治体やサッカーに力を入れている自治体などが協力し、ワールドカップで日本代表を応援するイベントを開催するなど、サッカーの振興と地域の活性化に取り組む応援団をつくりたい」と小倉名誉会長、大仁会長に提案し、連盟の立ち上げにこぎつけた。

市長としての責任と問題意識

1991年に福井県の県議会議員に当選し、14年間にわたって子どもの医療費の無料化、在日外国人の子どもの

サッカーグラウンドの整備や芝生化を進めていくことも連盟の目的の一つに掲げている。越前市では、サッカー人口が増え子どもたちのサッカー熱が高まっているにもかかわらず、十分な施設が整っていない。その課題に対し、奈良市長は「ワールドカップのパワーを借りて、次の段階としてサッカー環境の整備にも取り組むみたい」と語る。各自治体でも同様にサッカーの環境整備が進められていくはずだ。

越前市とともにサッカーの発展へ

奈良市長はJFAと良好な関係を築く中で、越前市の活性化が図られている手応えを感じている。それも奈良市長が掲げる越前市の将来構想とJFAのビジョンとが重なる部分があったからに違いない。「夢の教室から始めて、ひとつくりに貢献してもらい、ものづくり、まちづくりに協力したい。その延長で自治体連盟の発足にもつながったので、今後はJFAが目指すスポーツの振興にも一緒に取り組んでいきたい」と奈良市長は話す。地域の活性化とサッカーの発展へ、奈良市長の挑戦はこれからも続く。

■略歴
奈良 俊幸（なら としゆき）
1962年4月15日 福井県越前市生まれ

1985年 早稲田大学政経学部 卒業
1990年 公益財団法人 松下政経塾 卒業
1991年～2005年 福井県議会議員（4期）
2005年～ 越前市 市長（旧武生市 市長）